

① 申請者	山形県 鶴岡市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D E									
③ タイトル												
サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に会うまち鶴岡へ												
④ ストーリーの概要(200字程度)												
<p>山形県鶴岡市を中心とする庄内地域は、旧庄内藩士が刀を鋏に替えて開拓した、松ヶ岡開墾場の日本最大の蚕室群をきっかけに国内最北限の絹産地として発達し、今も養蚕から絹織物まで一貫工程が残る国内唯一の地です。</p> <p>鶴岡市では、松ヶ岡以外にも六十里越古道沿いの田麦俣集落に、四層構造で暮らし・養蚕などが一つの建物にまとまった多層民家が現存しています。さらに、国内ではここだけの精練工程が明治時代創業の工場で行われるなど、絹産業の歴史、文化が保存継承とともに、新たな絹の文化価値の創出にも取り組んでいます。鶴岡を訪れると、先人たちの努力の結晶である我が国近代化の原風景を街並み全体を通じて体感することができます。</p>												
<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td data-bbox="268 907 667 1167"></td> <td data-bbox="884 916 1329 1167"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="327 1173 603 1205">多層民家(田麦俣集落)</td> <td data-bbox="1011 1182 1174 1214">松ヶ岡開墾場</td> </tr> <tr> <td data-bbox="264 1252 687 1532"></td> <td data-bbox="890 1252 1326 1541"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="416 1554 504 1585">丙申堂</td> <td data-bbox="1002 1550 1203 1581">旧西田川郡役所</td> </tr> </table>							多層民家(田麦俣集落)	松ヶ岡開墾場			丙申堂	旧西田川郡役所
												
多層民家(田麦俣集落)	松ヶ岡開墾場											
												
丙申堂	旧西田川郡役所											
⑤ 担当者連絡先												
担当者氏名												
電 話		FAX										
E-mail												
住 所												



鶴岡市内



## ストーリー

日本の近代化を産業面から牽引した絹産業。旧庄内藩士が刀を鋤に持ち替えたことが、鶴岡市を中心とする庄内地域が国内最北限の絹産地となったきっかけでした。この地域は、国内の絹産業が時代とともに衰退する中で、百数十年を経た今もなお、養蚕から絹織物の製品化まで一貫した工程が残る国内唯一の地です。



現存する国内最大級の養蚕群

## “生きた業”の産業観光地 ～松ヶ岡開墾場～

明治維新の後、旧庄内藩士約 3,000 人（推定稼働延人員約 50 万人）が刀を鋤に替え、荒野を開拓し、日本最大の養蚕群を建設した松ヶ岡開墾場。ここは、庄内地域のみならず、日本全体の近代化にも貢献した“ジャパンシルク源流の地”です。松ヶ岡の開墾は、鶴岡市を中心に庄内地域で絹産業隆盛

## 開拓綱領が残る集落の拠点「本陣」



の大きな契機となり、産業面だけでなく、文化面にも大きな影響を与えました。



蚕室内での養蚕

明治時代初期に全国的で行われた士族授産の開墾地の多くが、普通の農山村集落となっていた中で、松ヶ岡開墾場は開墾当時の形態を継続し、今日までその施設、開墾地、経営方針を維持している稀有な例であり、日本の開拓史上きわめて貴重とされています。

松ヶ岡開墾場綱領にある「徳義を本として産業を興して国家に報じ、以て天下に模範たらんとす」の教えが守り続けられ、養蚕から製糸・製織・精練・捺染(なっせん)までの絹製品生産の一貫した工程を無形の文化遺産、すなわち“生きた業”として現在に継承する、国内で唯一の地域となっています。

## 多層民家の里 ～田麦俣～

鶴岡市田麦俣地区は、庄内地域と村山地域を結ぶ六十里越古道沿いの集落で、四層構造の多層民家の里として知られ、松ヶ岡の開墾により大きな影響を受けた地域の一つです。

明治時代の中頃、現金収入の源として養蚕が盛んになり、民家の二階以上が養蚕の場所として使用されるようになっていきました。しかし同地区は、山間部の傾斜地に位置し、住宅に適した土地が狭いうえに冬季は豪雪地帯として知られ、建物の新築や増築が困難であったため、毎日の暮らしと作業・養蚕のための部屋が一つの建物の中にまとめられて多層の形になったと言われています。

## 出羽三山の山間に広がる田麦俣集落





多層民家の建物

一層目は家族の居住用、二層目は住み込みの使用人たちの居住用と作業場、三層目が養蚕、そして四層目が物置として使用されました。その際、養蚕の作業効率を高めるため、屋根裏の改造が行われました。四方の屋根から採光と煙出しができるように「高はっぼう」と呼ばれる高窓が設けられましたが、これを屋根の側面から見た姿が「武者のかぶった兜」の姿に似ていることから、「兜造り」と呼ばれるようになり、建物は輪郭と緩やかな反り具合が美しい、風格のある意匠に変わっていきました。

### 近代化の原風景 ～商業・産業の近代化遺産群～

鶴岡の絹織物産業に対して、ベンチャー・キャピタルとして投資したのが、鶴岡城下で旧庄内藩の御用商人として発展し、後に鶴岡一の豪商となって産業の振興に力を注いだ風間家でした。風間家七代当主・幸右衛門は、



丙申堂表門

武家屋敷跡に住居と営業の拠点として

「丙申堂」を明

治29年(1896年)丙申の年に建設しました。この丙申堂は、約200年前の武家門や、約4万個の石が置かれた「石置屋根」が特徴で、主屋を中心に4つの蔵や広大な板の間と大黒柱など、豪商の往時の繁栄ぶりをよく残しています。



丙申堂内の「通り」

市内にある致道博物館では、田麦俣地区にあった多層民家の一棟が移築展示され、煙出しなど現地での行事が行われており、同じ敷地内に移設された旧西田川郡役所では、建設された明治時代、桑園整備への資金貸付、養蚕指導などが重要な業務となっていました。

また、鶴岡市内に立地し絹織物の精練等を担う羽前絹練では、明治時代創業の工場と昭和15年建築の事務所が当時のままに活用されており、往時を偲ぶことができます。

このように、鶴岡市では、近代化の礎となった絹産業の歴史と文化を保存継承し、近代化の原風景が貴重な歴史遺産として残されているとともに、現在は、絹の新たな文化価値や創造性溢れる産業を創出するため、市民、地域、行政が連携して「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」に取り組んでおり、鶴岡で生まれた絹糸の新たな活用として kibiso が、改めてジャパンシルクを世界に発信しています。



羽前絹練(株)精練作業風景

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の 状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所 在地 (※4)
①	松ヶ岡開墾場	国史跡	広大な開墾地の中心地であり、史跡地内には開墾本部として活用した「本陣」や瓦葺上州島村式の三階建の「大蚕室」5棟が現存する。	
②	松ヶ岡本陣	-	萱葺き、檜造平屋建の建物で松ヶ岡開墾事業の本陣となった。現在は地域の集会所としても利用され、開墾当初からの行事が行われている。	
③	松ヶ岡蚕室群	-	明治8年(1875)から10年(1877)の間に建てられた10棟のうち、5棟が創建当初の形容をそのままにとどめて現存しており、建物は群馬県の島村(現伊勢崎市)の構造方式を採用しているが、はるかにその規模が大きい建造物である。	
④	松ヶ岡蚕業稲荷神社	-	東京の旧酒井家藩邸に鎮座されていた神社を、明治8年(1875)に開墾地経塚丘上に遷し松ヶ岡神社とした後、明治28年(1895)に蚕業稲荷神社と改称し蚕業の守護神としたものである。	
⑤	松ヶ岡開墾士住宅	市有形	元々は浪士組織「新徴組」の住居として建てられ、後に松ヶ岡地域に移築し開墾士各戸の住宅とされた。石置屋根平屋建ての佇まいは、開墾の当時の様子をイメージさせる。	

⑥	旧遠藤家住宅	県指定	江戸時代後期の文化・文政年間（1804～30年）に建てられ、当初は寄棟造であったが、明治に入って養蚕が盛んになると、屋根の改造が行われ、屋根側面は「高はっぼう（高破風）」という輪郭と、反りが美しい「兜造」に改造され、正面側にも採光と煙出しの窓が造られた。	
⑦	旧風間家住宅 <small>へいしんどう</small> 丙申堂	国重文	鶴岡の絹織物産業に対して支援を行った風間家7代目幸右衛門（織物会社の社長も務める）が住居と営業の拠点として建築したもの。広大な板の間の架構、約4万個ともいわれる石を敷き詰めた石置杉皮葺の屋根などの特徴を持ち、明治期の庄内地方を代表する近代和風建築。	
⑧	風間家旧宅 表門	国登録	上記風間家住宅の南側道路に面した表門。	
⑨	風間家旧宅 西側板塀	国登録	上記風間家住宅の西側道路に面した板塀。	
⑩	風間家旧別邸 <small>むりようこうえん</small> 無量光苑 <small>しゃかどう</small> 釈迦堂	国登録	鶴岡の絹織物産業に対して支援を行った風間家により、明治43年（1910）に建築され、来賓の接待や関係者の集会の場として使われた。昭和27年（1952）からは風間家9代当主の私邸として現在に至っている。	
⑪	風間家旧別邸 土蔵	国登録	上記風間家旧別邸内にある土蔵。	
⑫	風間家旧別邸 表門	国登録	上記風間家旧別邸の南側にある両袖塀付の1間1戸薬医門形式の門。	
⑬	風間家旧別邸 中門	国登録	上記風間家旧別邸内にある両袖板塀付の腕木門。	

⑭	風間家旧別邸 北門	国登録	上記風間家旧別邸の北側にある簡素な腕木門。	
⑮	風間家旧別邸 板塀	国登録	上記風間家旧別邸西側は小屋根付きの板塀の構えを特徴付けている。	
⑯	旧渋谷家住宅	国重文	文政 5 年 (1822) に創建された多層民家であり、昭和 44 年 (1969) に致道博物館に移設。高層部では養蚕飼育の様子が伺える。	
⑰	旧西田川郡役所	国重文	郡役所として明治 14 年 (1881) に建てられたもので、当時桑植付けに対する貸付、繭糸品評会の開催や養蚕指導を行っていた。	
⑱	旧庄内藩主御隠殿 <small>ごいんでん</small>	未指定	文久 3 年 (1863) に 11 代藩主忠発が隠居所として建てた建物で、現在は、松ヶ岡開墾の指導者・菅実秀の命日に併せて「西郷隆盛・菅実秀両先生を偲ぶ会」がここで開催される。	
⑲	庄内藩校致道館	国史跡	全国の藩校の中では珍しく徂徠学を重んじ、教学・個性の伸長など庄内藩士の精神的支柱を形成した。ここで培われた教学の精神は、維新後に旧藩士が従事した開墾事業へ多大な影響を与えた。	
⑳	羽前絹練株式会社	-	明治 39 年 (1906) に創業。絹織物の精練工程を創業当時の釜を用い、現在も行われている。工場の敷地北東の一画には、武家屋敷や近代和風建築に共通する黒い板塀と門脇の松が一体となり昔の街並みの面影が感じられる純和風の事務所を備えている。	

## 構成文化財の写真一覧

1 松ヶ岡開墾場(国史跡)



2 松ヶ岡開墾場本陣



3 松ヶ岡開墾場蚕室群



4 蚕業稻荷神社



5 松ヶ岡開墾士住宅(市有形)



6 旧遠藤家住宅(県指定)



7 旧風間家住宅丙申堂(国重文)



8 風間家旧宅 表門(国登録)



9 風間家旧宅西側板塀(国登録)



10 風間家旧別邸 無量光苑釈迦堂(国登録)



11 風間家旧別邸 土蔵(国登録)



12 風間家旧別邸 表門(国登録)



13 風間家旧別邸 中門(国登録)



14 風間家旧別邸 北門(国登録)



15 風間家旧別邸 板塀(国登録)



16 旧渋谷家住宅(国重文)



17 旧西田川郡役所(国重文)



18 旧庄内藩主御隠殿



19 庄内藩校致道館(国史跡)



20 羽前絹練株式会社



※9 及び 11~15 山形県教育委員会写真提供

## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
40	サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち 鶴岡へ

## (1) 将来像 (ビジョン)

## 【全体像】

「サムライゆかりのシルク」のストーリーが核となり地域住民や民間事業者、地域外からの来訪者を結び付けながら、好循環の連鎖を創り出し、地域の活力へとつなげていく。

## 〔地域住民の視点では〕

鶴岡・庄内の近代化の礎となった絹産業の歴史文化と鶴岡のシルクは、鶴岡市民のアイデンティティの形成に大きく関わっている。さらに、日本遺産認定などその価値や魅力に対する外部からの評価は、地域内にとっても、サムライゆかりのシルクのストーリーに対する再評価に、ひいては、地域への愛着や誇りの醸成につながったところである。

地域の歴史文化の価値や魅力への十分な理解を、子供から大人まで域内の幅広い世代に浸透させることで、その保存継承と活用の取組が広がり、そのことが外部からの高評価につながり、地域住民の誇りや愛着をさらに高めるといふ、好循環を生み出す地域となっていく。

## 〔民間事業者の視点では〕

交通や飲食、宿泊、お土産など目に見えた業種だけでなく、農林水産業やサービス業など、観光は裾野が広いため、日本遺産ストーリーを活かした交流・関係人口の拡大することは、地域経済への波及効果も高い。DMO を司令塔として、保存継承されてきた歴史文化を地域の資源として有効に活用することで、観光が産業の柱の一つとなる地域となっていく。

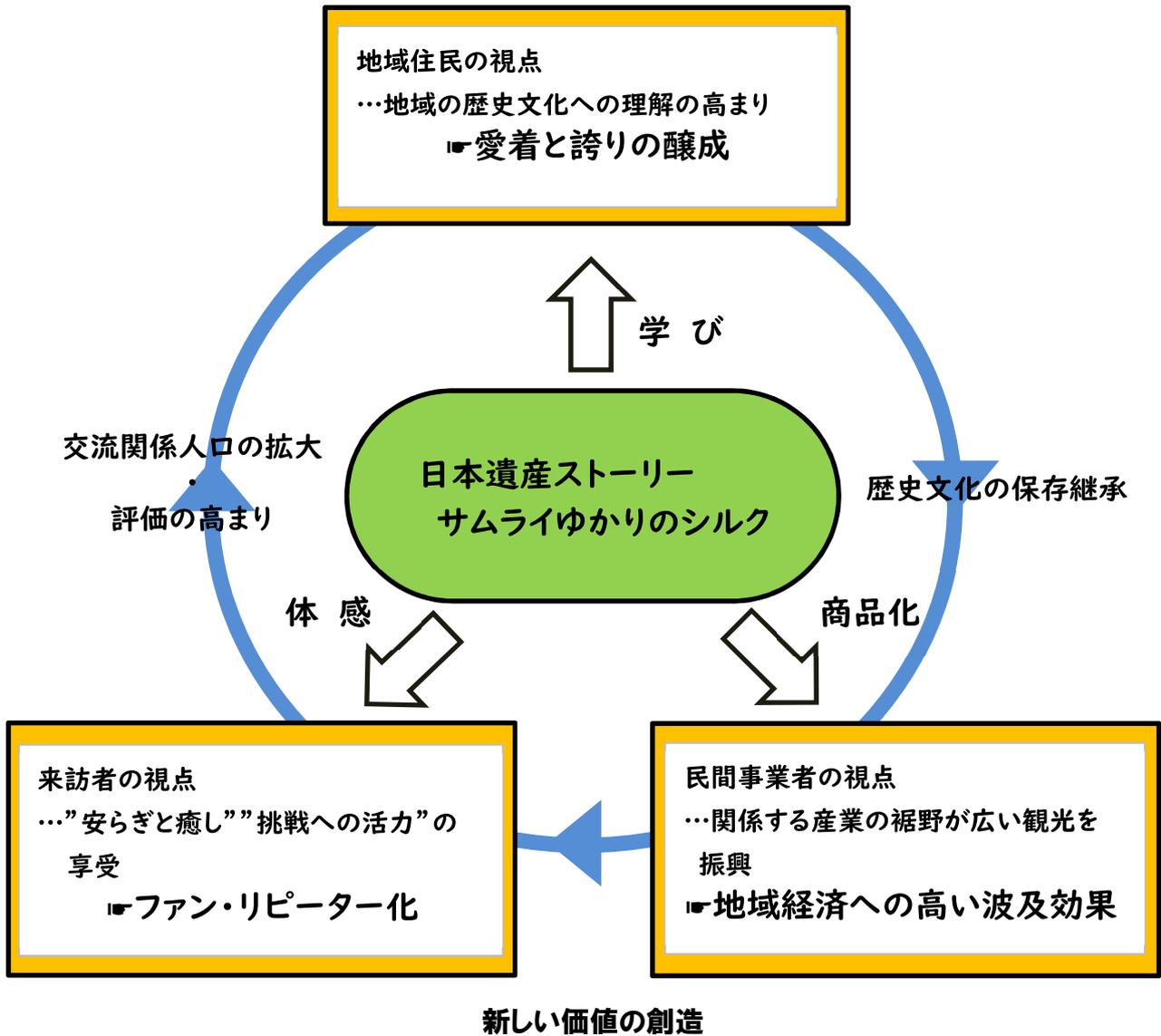
## 〔来訪者の視点では〕

鶴岡の街並みが醸し出すなつかしさは、来訪者に安らぎと癒しを与え、さらに、ストーリーの背景にある、先人たちの困難に立ち向かう開拓者精神を感じることで、何か新しいことを始めようという「活力」を与える。

ストーリーの体験を通じ、「安らぎと癒し」、「挑戦への活力」を享受した来訪者は、サムライゆかりのシルクのファンになり、さらにリピーターとなっていく。

日常に疲れたとき、何かに迷ったとき、新しいことに挑戦するとき、何度でも訪れたいくなる地域となっていく。

【イメージ図】



鶴岡市第2次総合計画において、「地域が持つ歴史や伝統、文化を大切に維持し発展させ、そこに住む人が誇りを持って住み続けられる地域づくりを進めます。また、歴史的風致や日本遺産として評価された歴史文化資源を活用し、現代に息づく魅力ある地域の形成を図り、活性化と交流人口の拡大を促進します。」とされており、その主な施策の一つとして「歴史的風致維持向上計画に基づく整備や日本遺産のストーリーとして認められた松ヶ岡開墾場などの地域資源を観光資源として磨き、民間の力を生かしながら情報発信などを進め、魅力的な歴史まちづくりを推進します。」と記載されている。

また、総合計画以外にも、まち・ひと・しごと総合戦略、歴史的風致維持向上計画、景観計画、中期観光戦略においても、目指す将来像と整合性を図られた上で、重要な施策として位置づけられている。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：構成文化財等ストーリー関係施設への延べ入込客数

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	43,100	47,700	73,800 ※12月末現在	85,000	95,000	105,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>各施設の入込客数を把握する。                      コロナの影響で令和2年度、3年度は、日本遺産認定の際に設定した目標未達だが、R4.4月にオープンしたシルクミライ館のインパクトも考慮し、コロナ感染拡大前の2019年度の95,000人を基準とし、2023年度は9割まで、更に、2024年度には同水準まで回復し、翌2025年度には対基準年度1割増を目指す。</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：地域住民が日本遺産を誇りに思う割合

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	—	74.7	73.4	75.0	75.0	75.0
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>山形県と連携し、アンケート調査を実施し、日本遺産ストーリー「サムライゆかりのシルク」を誇りに感じると回答した鶴岡市民の割合を把握する。                      「サムライゆかりのシルク」に対し誇りを「とても感じる」または「感じる」と回答した割合を75.0%にすることを目標とする。2021年度74.7%と2022年度は73.4%と高い水準となっていることから、普及啓発の取組により維持していく。</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③－A：入館料を徴する構成文化財施設への延べ入込客数の増加

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	26,300	30,300	37,000 ※12月末現在	49,000	54,000	59,400

<p>指標・目標値の設定の考え方及び把握方法</p>	<p>入館料を徴収する構成文化財施設・松ヶ岡開墾記念館、致道博物館の入館者数を把握。</p> <p>令和5年度はコロナ前である令和元年度の9割の水準、49,000人まで回復させることとし、以後、毎年度10%ずつの増加を目標とする。</p> <p>コロナ感染拡大前の2019年度の540,000人を基準とし、2023年度は9割まで、更に、2024年度には同水準まで回復し、翌2025年度には対基準年度1割増を目指す。</p>
----------------------------	---

<p>目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること</p>						
<p>指標④－A：日本遺産の構成文化財が活用可能な状態にある割合</p>						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	91.6%	91.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
<p>指標・目標値の設定の考え方及び把握方法</p>	<p>実態調査により、構成文化財の状態を把握する。、令和3年度に松ヶ岡開墾場の四番・五番蚕室の整備が完了し、現状、100%の構成文化財が活用可能な状態にあり、適切な維持管理により今後もこの状態を維持していく。</p>					

<p>目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること</p>						
<p>指標⑤－A：観光入込客数</p>						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	3,367千人	3,833千人	未集計	5,420千人	6,020千人	6,620千人
<p>指標・目標値の設定の考え方及び把握方法</p>	<p>鶴岡市の観光入込客数調査により把握する。</p> <p>コロナ感染拡大前の2019年度の6,016千人を基準とし、2023年度は9割まで、更に、2024年度には同水準まで回復し、翌2025年度には対基準年度1割増を目指す。</p>					

### (3) 地域活性化のための取組の概要

山形県鶴岡市を中心とする庄内地域は、旧庄内藩士が地域一円からの支援ものと、刀を鋏に替えて開拓した、松ヶ岡開墾を契機に国内最北限の絹産地として発達し、今も養蚕から絹織物まで一貫工程が残る国内唯一の地である。

日本遺産ストーリー「サムライゆかりのシルク」の中核をなす国指定史跡松ヶ岡開墾場には、明治初期に建設された蚕室5棟が、当時の面影をそのままに現存しており、また、松ヶ岡開墾場以外にも六十里越古道沿いの田麦俣集落には、暮らし・養蚕などが一つの建物にまとまった四層構造の多層民家・旧遠藤家住宅が残っている。

さらに、国内ではここだけの精練工程が明治時代創業の工場で行われるなど、絹産業の歴史、文化が保存継承とともに、新たな絹の文化価値の創出にも取り組んでいる。

鶴岡を訪れると、先人たちの努力の結晶である我が国近代化の原風景を街並みとストーリーを通じて体感することができる。

本市近代化の礎となった絹産業の歴史と文化を保存継承しながら、鶴岡のシルクの新たな価値を創造する取組を進めていくとともに、サムライゆかりのシルクのストーリーや構成文化財の魅力を積極的に発信することで、交流人口を拡大し、地域活性化につなげるため、「普及啓発」「観光振興」「人材育成・体制強化」の3つを柱に取組を進めていく。

#### 1、普及啓発

日本遺産認定後、協議会においては、ストーリーをわかりやすくまとめた小冊子の配布や地元紙への特集記事の掲載、市内の高校生のシルクをテーマとした学習や研究等への支援、またその成果発表の場としてのイベント開催などを実施してきた。

また、市の自主事業においては、幼稚園・保育園、小・中学校などを対象とした蚕の飼育体験や、鶴岡・庄内の絹産業発展の原点の地であり、ストーリーの中核である国指定史跡松ヶ岡開墾場での蚕の飼育体験を実施してきた。

それらの取組が、絹産業の歴史文化に触れるきっかけとなり、令和4年度の県が実施した認知度アンケートにおいても83.3%という高いストーリーの認知度につながっている。

今後は、より多くの市民に、特に小・中学生や、高校生等の若い世代がストーリーや絹産業の歴史文化に触れ、そして、深く学び考える機会創出し、認知を愛着・誇りへとつなげていく。

#### 2、観光振興

認定後、構成文化財施設や絹産業関連事業者、観光協会等と連携しWEBサイトでの情報発信や、QRコードを活用した案内板の設置など基本的な受入体制の整備を進めたほか、体験コンテンツや食メニューの開発、構成文化財施設をめぐるモデルルートの作成、教育旅行の誘致等にも取り組んだ。

さらに、市の自主事業ではあるが、松ヶ岡開墾場内の蚕室1棟をリノベーションした「絹織物体験施設・シルクミライ館」が、令和4年4月にリニューアルオープンした。

新型コロナウイルスの影響で、令和2年、3年度と構成文化財等のストーリー関連施設への入込客数は目標値を大きく下回ったが、令和4年度については、シルクミライ館がオ

オープンしたこともあり12月末時点の暫定値で、52,400人と、令和3年度の実績32,400人を現時点で大きく上回っており、また、目標とした75,200人に対しても、3か月を残し70%の水準まで迫っている。

今後は、令和元年7月に設立された鶴岡市をマネジメントエリアとする地域DMO・DEGAM鶴岡ツーリズムビューロー（以下、「DEGAM」）が全体をコーディネートし、DEGAMを含め構成文化財施設や観光協会等の民間事業者が主体となり、ストーリーを体感できるプログラムの企画や旅行商品の造成に取り組んでいく。

鶴岡市には「サムライゆかりのシルク」のほか、「出羽三山生まれかわりの旅」「北前船寄港地・船主集落」と3つの日本遺産ストーリーがある。「3つの日本遺産」を前面に打ち出し、本市で培われ育まれてきた豊かな歴史文化も魅力や価値を戦略的にプロモーションすることで、互いのストーリーの認知度向上や、周遊の促進など、相乗効果を生み出していく。

### 3、人材育成・体制強化

構成文化財施設の所有者や、構成文化財施設を保存活用する団体など、現在の地域プレイヤーの体制や機能の強化を図りながら、日本遺産事業に参画する新たな地域プレイヤーや取組への協力者、支援者を見出していく。

将来的な、地域プレイヤーや協力者、支援者を育成していくため、学校等と連携。幼稚園・保育園から小・中学校、高校と各年代で成長段階にあった絹産業やシルクについての体験や学びの機会を創出することで、若い世代の参画につなげていく。

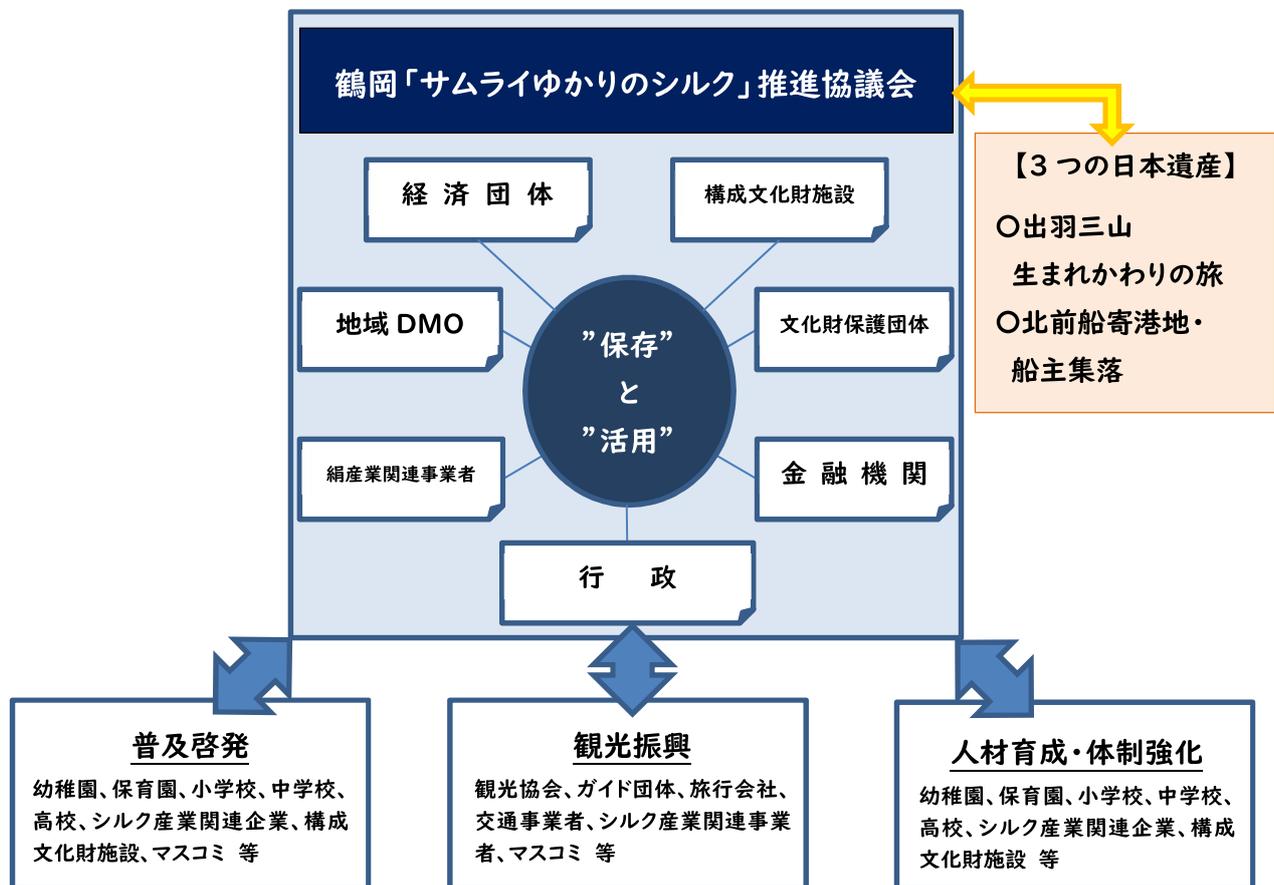
## (4) 実施体制

鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会

### 【構成団体】

- ・ 鶴岡商工会議所 【経済団体】
- ・ 出羽商工会 【経済団体】
- ・ 鶴岡織物工業協同組合 【シルク産業】
- ・ 一般社団法人 DEGAM 鶴岡ツーリズムビューロー 【観光振興・地域 DMO】
- ・ 鶴岡市文化財保護審議会 【文化財保護】
- ・ 公益財団法人致道博物館 【構成文化財施設】
- ・ 公益財団法人克念社 【 " 】
- ・ 地縁団体松ヶ岡開墾場 【 " 】
- ・ 鶴岡市金融協会 【金融機関】
- ・ 鶴岡市教育委員会 【文化財行政】
- ・ 鶴岡市

普及啓発	幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、シルク産業関連企業、構成文化財施設、マスコミ 等	絹産業やシルクを学ぶ機会、ストーリーや構成文化財に触れるきっかけ作り 等
観光振興	観光協会、ガイド団体、旅行会社、交通事業者、シルク産業関連事業者、他の日本遺産協議会、マスコミ 等	旅行商品の企画・お土産品の開発、体験コンテンツの提供、受入れ環境の整備、情報発信
人材育成・体制強化	幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、シルク産業関連企業、構成文化財施設 等	地域プレイヤーの育成・発掘、若者参画の推進



**[人材育成・確保の方針]**

人材育成については、日本遺産を活かした活性化の取組の3本柱の1つと捉えており、短期的な取組と中長期的な取組と分けて進めていく必要と考えている。

短期的な取組としては、構成文化財施設の所有者や、構成文化財施設を保存活用する団体など、現在活動している地域プレイヤー間の連携を強化と、日本遺産事業に対する協力者・支援者の見出しである。

プレイヤー間の連携強化により、点ではなく線、更には面として日本遺産事業の展開が

更に推進されるとともに、互いに刺激し合うことでの各々の取組の深堀りや、優良事例の地域内での横展開などの効果も期待される。

また、日本遺産事業に対する協力者・支援者の見出しについては、イベント等への参加者など、サムライゆかりのシルクに興味関心のある方を、協力者・支援者として関わりを深めることで、ゆくゆくは事業に参画する地域プレイヤーとして巻き込んでいく。

再掲となるが、中長期的な取組としては、将来的な、地域プレイヤーや協力者、支援者を育成していくため、学校等と連携。幼稚園・保育園から小・中学校、高校と各年代で成長段階にあった絹産業やシルクについての体験や学びの機会を創出することで、若い世代の参画につなげていく。

なお、地域プロデューサーの役割については、観光振興の分野では DEGAM が、普及啓発の分野では学校等との連携を密に取り組むことが効果的なことから教育委員会部局を含め行政が担うこととし、地域プレイヤー間のコーディネートなど行っていく。

#### (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

本協議会は、構成文化財施設や文化財保護団体のほか、経済団体、地域DMO、絹産業関連事業者、金融機関、行政（企画・商工観光・教育委員会）により構成されており、文化財の保存と活用のために必要な組織体制が整備されている。

観光振興や収益につながる事業においては、DEGAMの会員を中心に、旅行・交通業者等などの民間事業者によって、日本遺産を活かした自主的な取組が実施されている。

今後、サムライゆかりのシルクだけでなく、3つの日本遺産を前面に打ちだした戦略的なプロモーションを強化することで、民間事業者の取組の増加につなげていくとともに、協議会への参画や連携強化を促していく。

歴史や文化の継承による地域への愛着や誇りの醸成に資する取組は、公益性はあるものの収益性が低く、民間事業者が主体となって継続していくことが難しい分野であることから、市の予算により、市や日本遺産協議会が牽引し継続していくが、中長期的には、民間企業を巻き込みながら、普及啓発事業の取組を広げていく。

#### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産認定を契機に、国交省所管の補助金を活用し、それまで一般には公開されてなかった構成文化財を整備し公開するなど、構成文化財の持つ本質的価値が損なわれないよう適切に保存しながら、積極的な活用を進めてきた。これらの取組により、構成文化財施設への入込客数の増加など目に見えた成果が出てきている。

将来像でも言及したが、観光は関連する産業が多岐にわたることから、その振興・拡大による地域経済への波及効果は広く大きい。

構成文化財を適切に保存することが、その本質的な価値を保ち続けることにつながり、その上で、積極的に活用していくことで、地域への経済効果につながる。このことを構成文化財施設の所有者や関係団体、民間事業者、ひいては市民全体で共有し、協力・連携のもと日本遺産ストーリーを体験できる観光振興に構成文化財を活用していくことで、保存と活用の好循環の創出へつなげていく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会の組織強化
概要	関係する部局・地域による定例の連絡会議の開催。

	取組名	取組内容	実施主体
①	事業所連絡会	主要な構成文化財施設及び庁内関係部局の実務担当者の定期的な協議の場を設け、意見・情報交換を通じ、より効果的な事業展開につなげていく。	関係団体・協議会・市

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	実務者ミーティングの開催	12回
2021		12回
2022		12回
2023	〃	12回
2024	〃	12回
2025	〃	12回

事業費 2022年度： — 2023年度： — 2024年度： —

継続に向けた事業設計	<p>事務局を鶴岡市企画部政策企画課に設置し、協議会の運営や地域活性化計画の事業進捗状況、目標の達成状況を把握する。</p> <p>観光振興による交流人口の拡大については、地域DMOであるDEGAMが全体をコーディネート、ICT調査等のマーケティングデータに基づく戦略のもと、DEGAM会員を中心とした企業民間事業者による商品造成などにつなげていく。</p> <p>(5)にて触れているが、歴史や文化の継承による地域への愛着や誇りの醸成に資する取組は、公益性はあるものの収益性が低く、民間事業者が主体となって継続していくことが難しい分野であることから、市の予算により、市や日本遺産協議会が牽引し継続していくが、中長期的には、民間企業を巻き込みながら、普及啓発事業の取組を広げていく。</p>
------------	---

(事業番号 1 - B)

事業名	構成文化財保存活用団体の組織強化		
概要	本市絹産業の始まりの地であり、ストーリーの中核でもある史跡松ヶ岡開墾場の公開利活用を更に促進していくため、松ヶ岡開墾場の保存・利活用を担う団体の組織強化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	史跡松ヶ岡開墾場管理運営協議会（以下、松ヶ岡協議会）による史跡松ヶ岡開墾場の管理運営	松ヶ岡協議会による松ヶ岡開墾場の効率的で効果的な管理運営に向け、当該団体の組織強化を図る。 なお、当該団体は維持管理だけでなく、日本遺産インフォメーションセンターを拠点に来場者への総合案内等の機能も担っており、案内・ガイドの機能強化にもつなげていく。	市・松ヶ岡協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産インフォメーションセンターでの総合案内		2,679人
2021			1,688人
2022			9,371人
2023	〃		10,000人
2024	〃		10,000人
2025	〃		10,000人
事業費	2023年度：21,707千円 2024年度：22,000千円 2025年度：22,000千円		
継続に向けた事業設計	松ヶ岡協議会は保存活用計画に規定する保存と活用とが相乗的に効果を発揮する管理運営を担うために、地元地縁団体と、場内及び周辺の事業者が構成員とする組織で、史跡松ヶ岡開墾場な一体的な管理運営を担う組織となるべく、令和4年3月に設立した団体である。 2023年度からは、開墾場全体の包括管理運営を受託し、更に2024年度には、当該団体による松ヶ岡開墾場の指定管理を計画しており、委託料により運営するとともに、自立・自走していく。		

(事業番号1-C)

事業名	日本遺産ふるさと納税等推進事業		
概要	ふるさと納税や寄附金、民間助成金など外部資金を積極的に獲得し、サムライゆかりのシルクを応援する外部資金の確保につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ふるさと納税事業	3つの日本遺産、山（出羽三山）、里（サムライシルク）、海（北前船寄港地）にちなんだふるさと納税返礼品を提供する。	市 民間事業者
②	寄附金や民間助成金、クラウドファンディングなどによる外部資金の調達	クラウドファンディングや寄附金や民間助成金、さらにクラウドファンディングなど、多様な手段を検討し、外部資金獲得を図っていく。	日本遺産協議会 市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	ふるさと納税寄付金、民間助成金 等		0円

2021		161,000 円
2022		1,878,000 円
2023	〃	3,000,000 円
2024	〃	3,000,000 円
2025	〃	3,000,000 円
事業費	2022 年度： － 2023 年度： － 2024 年度： －	
継続に向けた事業設計	<p>民間の事業者等を巻き込みながら、日本遺産ストーリーにちなんだ返礼品の商品数を増やすことで、寄附金額の増加につなげていく。</p> <p>また、ふるさと寄附金以外にも、クラウドファンディングや民間からの助成金などの、外部資金の獲得を図り、協議会の活動の資金源の一部としていく。</p>	

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	自治体の長期構想への反映		
概要	<p>持続的・継続的な日本遺産事業を推進するため、日本遺産制度趣旨及び本地域活性化計画を踏まえ、市が定める総合計画等の上位計画に位置づけを行う。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	総合計画（後期）【現計画期間：H25 年度～R4 年度】	令和 5 年度の間見直しの際に、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	市
②	歴史的風致維持向上計画【現計画期間：H25 年度～R4 年度】	令和 5 年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	市
③	鶴岡市中期観光戦略【現計画期間：H30 年度～R4 年度】	令和 5 年度の改訂時に、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえた反映を行う。	市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	行政計画への位置づけ数		5 件
2021	（総合計画、まち・ひと・しごと総合戦略、歴史的風致維持向上計画、中期観光戦略、景観計画）		5 件
2022			5 件
2023	行政計画への位置づけ数		5 件
2024	行政計画への位置づけ数		5 件
2025	行政計画への位置づけ数		5 件
事業費	2022 年度： － 2023 年度： － 2024 年度： －		

継続に向けた事業設計	日本遺産事業は、既に市の総合計画等に重点施策1つとして位置付けられているが、改訂・見直し等の機会には、日本遺産趣旨及び本地域活性化計画を踏まえ反映させることで、重点施策として着実に推進していく。
------------	---

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	学校等と連携した「サムライゆかりのシルク」普及啓発事業		
概要	市内の幼稚園・保育園の園児や小学校の児童、中学校・高校の生徒が、地域の近代化の礎となった絹産業やシルクに触れる機会を創出することで、ストーリーや構成文化財への関心や理解を高めるとともに、地域への愛着や誇りの醸成につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	シルクで頑張る若者応援事業	シルクをテーマとした研究や、鶴岡のシルクの魅力や価値の普及啓発、発信PRにつながる、高校生の活動を支援する。	協議会
②	蚕飼育体験	市内の幼稚園・保育園、小中学校などを対象に絹織物一貫工程の1つである「養蚕体験」を実施。	市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	事業への参加者数		1,000人
2021			1,000人
2022			1,200人
2023			1,200人
2024			1,200人
2025	1,200人	1,200人	
事業費	2023年度：350千円    2024年度：350千円    2025年度：350千円		
継続に向けた事業設計	歴史や文化の継承による地域への愛着や誇りの醸成に資する取組は、公益性はあるものの収益性が低く、民間事業者が主体となって継続していくことが難しい分野であることから、市の予算により、市や日本遺産協議会が牽引し継続していくが、中長期的には、民間企業を巻き込みながら、普及啓発事業の取組を広げていく。		

(事業番号3-B)

事業名	満足度向上に向けたガイドスキルアップ事業
概要	ガイド団体のスキルアップに向けた会員間の情報交換や勉強の機会となる研修会の開催。

	取組名	取組内容	実施主体
①	鶴岡市観光ガイド協議会	会員間の情報交換や勉強の機会となる定例の研修会を開催し、構成文化財が集積する市街地の観光ガイド団体のガイド技術の向上を図る。	ガイド団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	スキルアップに向けた研修会の実施回数		14回
2021			14回
2022			14回
2023	〃		14回
2024	〃		14回
2025	〃		14回
事業費	2022年度：1,675千円 2023年度：1,675千円 2024年度：1,675千円		
継続に向けた事業設計	ストーリーや構成文化財の魅力を分かりやすく伝えるガイド機能の充実は観光客の満足度向上に寄与するものであり、受入体制強化の視点からも不可欠であることから、市の予算も充当しながら継続していく。		

(事業番号3-C) [事業番号1-B再掲]

事業名	構成文化財保存活用団体の組織強化		
概要	本市絹産業の始まりの地であり、ストーリーの中核でもある史跡松ヶ岡開墾場の公開利活用を更に促進していくため、松ヶ岡開墾場の保存・利活用を担う団体の組織強化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	史跡松ヶ岡開墾場管理運営協議会（以下、松ヶ岡協議会）による史跡松ヶ岡開墾場の管理運営	松ヶ岡協議会による松ヶ岡開墾場の効率的で効果的な管理運営に向け、当該団体の組織強化を図る。 なお、当該団体は維持管理だけでなく、日本遺産インフォメーションセンターを拠点に来場者への総合案内等の機能も担っており、案内・ガイドの機能強化にもつなげていく。	市・松ヶ岡協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産インフォメーションセンターでの総合案内		2,679人
2021			1,688人
2022			9,371人
2023	〃		10,000人
2024	〃		10,000人
2025	〃		10,000人
事業費	2023年度：21,707千円 2024年度：22,000千円		

	2025年度：22,000千円
継続に向けた事業設計	<p>松ヶ岡協議会は保存活用計画に規定する保存と活用とが相乗的に効果を発揮する管理運営を担うために、地元地縁団体と、場内及び周辺の事業者が構成員とする組織で、史跡松ヶ岡開墾場な一体的な管理運営を担う組織となるべく、令和4年3月に設立した団体である。</p> <p>2023年度からは、開墾場全体の包括管理運営を受託し、更に2024年度には、当該団体による松ヶ岡開墾場の指定管理を計画しており、委託料により運営するとともに、自立・自走していく。</p>

(7) - 4 整備			
(事業番号4-A)			
事業名	2次交通支援事業		
概要	出羽三山など、市の主要観光施設とサムライゆかりのシルクの構成文化財施設をつなぐ2次交通の脚を充実させることで、来訪者の利便性の向上と周遊の促進につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	鶴岡駅と構成文化財施設や主要観光地を結ぶ2次交通運行支援	主要なゲートウェイである鶴岡駅と構成文化財、市を代表する観光地とを結ぶ2次交通バスや観光ハイヤーの運行を支援する	DEGAM
②	レンタサイクル	構成文化財が集積している市街地観光の利便性と快適さの向上につなげるため、駅前の観光案内所にて観光客に自転車の無料で貸し出す。	DEGAM
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	構成文化財等ストーリー関係施設への延べ入込客数		43,100人
2021			47,700人
2022			77,000人(12月末現在)
2023	〃		85,000人
2024	〃		95,000人
2025	〃		105,000人
事業費	2022年度：3,700千円 2023年度：3,700千円 2024年度：3,700千円		
継続に向けた事業設計	<p>鶴岡市は市域が広いため、点在する構成文化財を快適に周遊するための、2次交通網の整備は不可欠である。採算性からDEGAMを通じ、行政が民間の交通事業者等を支援していくことで、アクセスを確保し利便性向上と周遊促進を図るもの。</p> <p>費用対効果の高い事業を継続するためにも、来訪者ニーズに合わせたアクセス整備の検討を図りながら、中長期的には、来訪者からの収入によって事業を構築する仕組みを検討していく。</p>		

(事業番号4-B)			
事業名	歴史的建造物保存事業		
概要	史跡松ヶ岡開墾場内の歴史的建造物の復原や保存修理、活用整備を行い、建物の持つ本質的価値を損なうことなく適切に保存継承していく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	貯桑土蔵保存修理事業	老朽化が著しく、建物全体に歪みが生じ、雨漏りが多発する貯桑土蔵について、建物の保存修理を行う。	市
②	二番蚕室活用整備事業	陶芸教室や食文化を伝えるワークショップなど、活用の幅を広げるため、建物内に、流し台等の調理設備や手洗い場を設けた多目的スペースを整備する。	市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	構成文化財等ストーリー関係施設への延べ入込客数		43,100人
2021			47,700人
2022			77,000人(12月末現在)
2023	〃		85,000人
2024	〃		95,000人
2025	〃		105,000人
事業費	2023年度：9,645千円 2024年度：26,137千円 2025年度：26,137千円		
継続に向けた事業設計	史跡内の歴史的建造物の持つ、本質的価値を損なうことなく適切に保存継承するため、所有者である市が適切に維持管理していく。		

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号5-A)			
事業名	3つの日本遺産連携観光振興事業		
概要	鶴岡市は、「サムライゆかりのシルク」のほか、「出羽三山生まれかわりの旅」「北前船寄港地・船主集落」と合わせて3つの日本遺産ストーリーを有している。3つのストーリーを活かし、効果的な観光誘客や周遊促進を図っていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	・3つの日本遺産を活かした観光PR ・3つの日本遺産を	鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会、出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会、鶴岡市北前船日本遺産推進協議会の連携を強化	市 3協議会 DEGAM

	核とした周遊促進	し、紙媒体やインターネットによる情報発信、各種イベントにおけるPRを行うことで、相乗効果を発揮する。	
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	観光入込客数		3,367千人
2021			3,833千人
2022			未集計
2023	〃		5,420千人
2024	〃		6,020千人
2025	〃		6,620千人
事業費	2023年度：1,500千円 2024年度：1,500千円 2025年度：1,500千円		
継続に向けた事業設計	市内のほかの日本遺産推進組織やDEGAM、市と連携し、「3つの日本遺産」を前面に押し出し、鶴岡を観光PRし、誘客拡大につなげることで、高い経済効果を広く地域全体に波及させる。		

(事業番号5-B)

事業名	3つの日本遺産インバウンドプロモーション		
概要	鶴岡市の3つの日本遺産を活用したプロモーションによりインバウンドの推進を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	インバウンドプロモーション	DEGAM と連携し、出羽三山に代表される精神文化や、サムライゆかりのシルクの歴史など鶴岡の強みに興味関心の高い欧米豪をメインターゲットとした多言語デジタルパンフレットの製作、多言語ガイドの育成等受入環境を整備するとともに、海外メディアや旅行会社に鶴岡の魅力を発信し、ポストコロナを見据えたインバウンド誘客の推進を図る。	市 3協議会 DEGAM
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020年	鶴岡市外国人延べ宿泊数		982人
2021年			1,075人
2022年			集計中
2023年	〃		10,900人
2024年	〃		12,100人
2025年	〃		13,300人
事業費	2023年度：3,000千円 2024年度：3,000千円 2025年度：3,000千円		

継続に向けた事業設計	<p>鶴岡の3つの日本遺産、特に出羽三山はポストコロナで注目される旅行形態であるアドベンチャートラベル(※)の観点からも強くアピールできる素材であり、サムライゆかりのシルクの歴史文化含め、3つの日本遺産を有する鶴岡の魅力を一体でプロモーションすることで認知度向上、誘客促進を図っていく。</p> <p>※アドベンチャートラベル …「自然」「異文化体験」「アクティビティ」の3つの要素のうち2つ以上を組み合わせた旅行形態</p>
------------	---

(事業番号5-C)

事業名	サムライゆかりのシルク教育旅行推進事業		
概要	教育旅行誘致に向け、日本遺産のストーリーを体験するプログラム等の周知パンフレットにより、旅行エージェントや学校関係者等への働き掛けを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育旅行向けデジタルパンフレットによる誘致	教育旅行用デジタルパンフレット「まなぶつるおか」を、県内の小学校や、東北地方の旅行エージェント等に配布し、誘致活動を行う。	DEGAM
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	教育旅行で鶴岡市を訪れた学校数		98校
2021			223校
2022			130校
2023			150校
2024			150校
2025			150校
事業費	2023年度：200千円 2024年度：200千円 2025年度：200千円		
継続に向けた事業設計	<p>「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」どの段階でも、学習に活用できるデジタルパンフレットになっており、学生・生徒が興味を持って学べる環境を整いえるとともに、学校やエージェント側のニーズを踏まて、掲載内容を充実させることで、継続的な教育旅行の誘致につなげていく。</p> <p>※2021年度はコロナ禍の中、マイクロツーリズムが伸びたことで校数が急増したものの、2023年度以降も高い水準を維持することを目標とする。</p>		

(事業番号5-D)

事業名	サムライゆかりのシルク体験コンテンツ・お土産充実事業		
概要	ストーリーを体感できるコンテンツ・食メニューの開発・提供することで、旅の満足度を高め、ファン・リピーターの獲得を図る		
	取組名	取組内容	実施主体

①	絹織物生産一貫工程 関連の体験コンテンツ の提供	令和4年4月にリニューアルオープンした絹織物体験施設「シルクミライ館」において、本市近代化の礎となった絹産業の歴史文化や絹織物の生産工程に関する資料の見学と合わせ、絹織物の生産工程等の体験コンテンツを提供する。	松ヶ岡 協議会 市
②	松ヶ岡ならではの食メ ニューの提供	シルク入り麦切や松ヶ岡茶といった、ならではの食メニューを提供する。	松ヶ岡 協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	構成文化財等ストーリー関係施設への延べ入込客 数		43,100人
2021			47,700人
2022			77,000 (12月末現在)
2023	〃		85,000人
2024	〃		95,000人
2025	〃		105,000人
事業費	2023年度：1,300千円 2024年度：1,300千円 2025年度：1,300千円		
継続に向けた 事業設計	①については、施設の設置目的に基づき市からの委託事業として松ヶ岡協議会が実施しているもの。 ②に関しては、場内事業所が自主事業として実施している。シルクミライ館のオープンなどにより、松ヶ岡開墾場への来場者は大幅に増加しており、取り込んでいくことで収益増につなげ、事業を継続していく。		

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号6-A)			
事業名	史跡松ヶ岡開墾場でのイベント		
概要	ストーリーの中核であり、明治初期の面影が今も残る史跡松ヶ岡開墾場をフィールドとしたイベント開催し、歴史情緒あふれる雰囲気や四季折々の景観などの松ヶ岡ならではの魅力に触れる機会を創出することで、ストーリーや構成文化財への関心を持つきっかけとする。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	松ヶ岡協議会主催イベント	四季折々の景観や開墾場全体の雰囲気を活かしたイベントの開催 桜まつり、夏まつり、クラフトフェス、冬まつり 等	松ヶ岡 協議会
②	市主催イベント	場内の蚕室の独特の雰囲気と広い空間を活かした、音楽イベント等の開催	市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	イベントへの参加者数		—

2021		100人
2022		20,000人
2023	〃	21,000人
2024	〃	22,000人
2025	〃	23,000人
事業費	2023年度：1,800千円 2024年度：1,800千円 2025年度：1,800千円	
継続に向けた事業設計	歴史文化への愛着と誇りの醸成につながるとともに、松ヶ岡開墾場内の収益に結びつく取組であることから、市予算も活用しつつ、松ヶ岡協議会と連携し実施していく。 松ヶ岡協議会主催イベントについて、中長期的には、来場者からの収入等を増やし、自主財源の割合を増やしていく。	

(事業番号6-B)

事業名	日本遺産ウィーク in 鶴岡の開催			
概要	2月13日(日本遺産の日)周辺に、「出羽三山生まれかわりの旅」「北前船寄港地船主集落」の協議会や構成文化財施設と連携協力し、施設の無料開放や特別展示などの普及啓発の取組を展開			
	取組名	取組内容	実施主体	
①	日本遺産紹介パネル等の設置	公共施設や構成文化財施設に市内3つの日本遺産ストーリーを紹介するパネル等を設置	3協議会	
②	無料開放やライトアップ等の特別企画	期間限定の入館料を徴する施設の無料開放、ライトアップ、特別展示などの実施	構成文化財施設	
年度	事業評価指標		実績値・目標値	
2020			—	
2021	地域における日本遺産の認知度		88.1%	
2022			83.3%	
2023			〃	85.0%
2024			〃	85.0%
2025			〃	85.0%
事業費	2023年度：100千円 2024年度：100千円 2025年度：100千円			
継続に向けた事業設計	歴史文化への愛着と誇りの醸成につながるものであり、直接収益に結びつく取組ではないことから、3協議会が主導し、個々の構成文化財施設の取組を集約し、一体的に周知・PRする取組を継続していく。			

(事業番号6-C) [事業番号3-A再掲]

事業名	学校等と連携した「サムライゆかりのシルク」普及啓発事業
-----	-----------------------------

概要	市内の幼稚園・保育園の園児や小学校の児童、中学校・高校の生徒が、地域の近代化の礎となった絹産業絹産業やシルクに触れる機会を創出することで、ストーリーや構成文化財への関心や理解を高めるとともに、地域への愛着や誇りの醸成につなげる。			
	取組名	取組内容	実施主体	
①	シルクで頑張る若者応援事業	シルクをテーマとした研究や、鶴岡のシルクの魅力や価値の普及啓発、発信PRにつながる、高校生の活動を支援する。	日本遺産協議会	
②	蚕飼育体験	市内の幼稚園・保育園、小中学校などを対象に絹織物一貫工程の1つである「養蚕体験」を実施。	市	
年度	事業評価指標		実績値・目標値	
2020	事業への参加者数		1,000人	
2021			1,000人	
2022			1,200人	
2023			〃	1,200人
2024			〃	1,200人
2025			〃	1,200人
事業費	2023年度：3,500千円 2024年度：3,500千円 2025年度：3,500千円			
継続に向けた事業設計	歴史や文化の継承による地域への愛着や誇りの醸成に資する取組は、公益性はあるものの収益性が低く、民間事業者が主体となって継続していくことが難しい分野であることから、市の予算により、市や日本遺産協議会が牽引し継続していくが、中長期的には、民間企業を巻き込みながら、普及啓発事業の取組を広げていく。			

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号7-A)			
事業名	サムライゆかりのシルクの戦略的な情報発信事業		
概要	構成団体及び協議会が運用するHPやSNS、文化庁の日本遺産ポータルサイト等により、「サムライゆかりのシルク」のストーリーや構成文化財の魅力を広く発信する。 受け手側にとって、欲しい情報がタイミングよく、かつ、簡単に入手できることを意識し、ターゲットや内容により、媒体を変えるなど工夫することで、効果的な発信につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	国内向けの情報発信	(1) HPによる情報発信 協議会や構成文化財施設がそれぞれ運用するウェブページにて積極的に情報を発信し、認知向上を図る。	協議会 構成文化財施設 DEGAM

		<p>DEGAM が運用する鶴岡観光ナビには、ストーリー、モデルコース、体験プログラム等の情報が記載されたランディングページがあり、また、アクセス数も多いことから、特に観光情報については、当該ウェブページに集約していく。</p> <p>○協議会運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サムライゆかりのシルク公式サイト (<a href="https://samurai-yukarino-silk.jp">https://samurai-yukarino-silk.jp</a>)</li> <li>・Matsugaoka Craft Park (<a href="https://tsuruoka-matsugaoka.jp">https://tsuruoka-matsugaoka.jp</a>)</li> </ul> <p>○DEGAM 運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つるおか観光ナビ (<a href="https://www.tsuruokakanko.com">https://www.tsuruokakanko.com</a>)</li> </ul> <p>(2) SNS の運用・情報発信</p> <p>協議会や構成文化財施設、DEGAM がそれぞれツールの特性を活かした情報発信を行う。ウェブページの URL を付すことで、関連情報への誘導につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitter・Instagram</li> </ul> <p>…即時性や話題性を重視した地域情報。</p> <p>動画や写真を効果的に活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Facebook</li> </ul> <p>…比較的にユーザーの年齢層高い</p>	
②	国外向けの情報発信	<p>DEGAM が運用するインバウンド向けのウェブサイトやSNSにより、出羽三山など他の日本遺産を含め、鶴岡の魅力を一体で発信。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tsuruokacity (<a href="https://www.tsuruokacity.com">https://www.tsuruokacity.com</a>)</li> </ul>	DEGAM
③	日本遺産ポータルを活用した情報発信	<p>文化庁の日本遺産ポータルを活用し、イベント等の情報について、効果的に発信していく。</p>	協議会
④	マスメディアとの連携	<p>報道機関等からも協力を受けながら、効果的な発信の強化を図る。</p>	協議会 構成文化財施設 DEGAM
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	協議会が運用するウェブサイトのPV数/年度		33,702
2021			41,987

2022		54,613
2023	//	57,000
2024	//	60,000
2025	//	63,000
事業費	2022年度：800千円 2023年度：800千円 2024年度：800千円	
継続に向けた 事業設計	<p>認知向上に向け協議会や構成文化財施設の各々のHP・SNS等でのきめ細やかな情報発信していくとともに、アクセス数の多い、DEGAMが運用する鶴岡観光ナビに観光情報を集約し、ターゲットやニーズに応じた情報発信を行う。</p> <p>また、文化庁の日本遺産ポータルを活用やメディアとの連携により、スケールメリットを活かした費用対効果の高い取組とする</p>	